

No.2に引き続き、「学校ICTに関するアンケート」の回答を掲載します。 ※⇒明朝体表記は市教組の見解です。

3. その他、全般的なご意見

・デジタル教科書のインストールに非常に時間がかかるので、予め入れておくか、人員の配置がほしい。

⇒改善に向けて文科省が全国的に調査を行っています。

…ICT 関連の初期設定等、授業外で時間を取られることが多い。

…デジタル教材が入っている場所がバラバラなので、一箇所にまとめてほしい。

…デジタル教科書のアカウント登録が難しいと困っている教員がたくさんいる。

…市教委による改善が遅いように思う。

⇒紙の教科書と同じで、4/1以降でないと渡せない決まりになっているようです。

…東京書籍のデジタル教科書がガラッと変わって使いにくい。今まで使えた機能がどこにあるか分かりにくい。

…デジタル教科書の仕様が変わり、使いづらい日々になっている。

・デジタルドリルを含め、年度末・始めの移行業務、設定などに相当の時間がかかる。

⇒長時間労働を解消するためにも、要求をあげています。

…年度末の更新と年度始めの指導者用デジタル教科書、スクリーンライフノート、デジタルドリル、学習者用デジタル教科書の登録に多くの時間を要する。また、週案の設定方法（新規採用者向けの講習）を教えることも。始業式までに済ませなければならない作業が多く、個々に時間をとられることに不満を感じる。この春休み期間に設定するための人材がほしい。ICT 教育アシスタントや navima のアシスタント、次世代サポーターの来校日スタートが4/15（月）からだだったので、とても遅すぎると思う。

・学習者用端末の調整や個人とのひもづけ、管理まで ICT 担当や教務の仕事となると、業務量は学習端末導入前よりかえって増えている。

…プロファイル削除とキャッシュ削除の定期的なオンライン自動化がすすむと便利になる。

⇒前々年度の削除は、市教委が一括で行うようになりましたが、卒業時のデータ削除の課題が残っています。

…年度移行特設サイトに教務（ICT 担当）ですべき年度またぎの色々な作業も載せてほしい。学校ごとに伝承されていると思うが、教育委員会でもまとめてほしい。

…（あまり使うのが得意でないものもあるが）学習者用端末について便利だと思ったことはない。めんどくさい仕事が増えると思えない。

…管理が大変

…CIO 権限が新任教務や管理職の異動などによってうまくできず、年度始めの忙しい時期にPC関係で相当な時間をとられる。

・オンライン調査等が増え、対応や手順を教育委員会で流してほしい。（年度移行特設サイトのよう）

・デジタル教科書の設定や、前年度までのプロファイル削除などの情報が研修会で全く出てこない。市教委、教育センター、ICT 担当間で情報共有ができていないのではないかと。

⇒情報共有するよう、教育センターの担当に申し入れしました。

・ICT に伴う故障・不具合の対応を現場へ丸投げせず、専門の窓口を設置すべき。

…色々な使い方を現場に丸投げしすぎている。ICT 支援員さん頼りになっている。

・スクリーンメニュー、C4th、SKIP、ヘルプデスクに分業され、電話しても4月当初は折り返し待ちで仕事ははかどらない。全ての設定関係は支援に来て済ませてほしい。すでに ICT 担当が設定してくれていたものをリセットされたりして、仕事が二度手間持ち帰りの仕事が増えるばかりです。

…記録の修正、メンテナンス、破損機など不具合が多すぎる。

教員に ICT 担当がいるが、仕事は ICT のみではないので、教員の役割ではないと思う。

・修了書の日付設定とかも大阪で統一してほしい。全市で切り替え作業ができることは全部やってほしい。学校の実情に

合わせてできるという汎用性のために、かえって作業が複雑で手がかかる。

・アナログは効率が悪いとかデジタルが便利とか、効率のためにデジタル化すべきでない。人力でやっていたことを担う人がいないのでデジタル化したというなら、誰にでも使えて簡単なシステムにしてほしい。

・アナログは人で解決し、デジタルはシステムで解決するが、システムは現状、複雑なうえに手間が増えて、仕事の改善に役立っていない。ハンコがPC入力になったくらいで作業工程は減っていない。

…教職員の負担軽減にはなっていないと思う。

…教員の本来業務でない不要な業務（大量のアンケートなど）を見直すべき。

…プリントの印刷などはデジタルで楽になったように思えるが、立ち上げや設定等が煩雑で、アナログの方が時短で済むことがある。

・市教委などの連絡が校務系で来るにもかかわらず、提出は Outlook で求められることが多いため、ネットワーク間転送を行う必要があるなど、ひと手間かもしれないが量が多いと負担が大きく、タイムロスが大きい。

⇒以前から申し入れていることなので、どこの部署からの指示（通知）か教えていただくと助かります。

・ICT 支援員が必要なときにいない、できないことが多く、保管庫の整備や端末の管理、通信環境の確認など、現場が困っている内容に対する解決に至らない。

⇒通信環境の確認はヘルプデスクにお問い合わせください。

…時々、支援員が来てくれるが、必要な時にはいない。来てくれる時には、特に助けが必要ではないというミスマッチが起こっている。

・教員用、児童用ともに PC のスペックを上げてほしい。

…ICT 化を本当に進めるのであれば、それなりに高いスペックのものがいい。職員の作業環境についても、モニターの導入など、市をあげてした方がいい。机はもっと大きいものでないと作業しにくい。

- 1台のPCで仕事がほとんどできるということで、以前よりはとても便利になったが、起動からしたいことができるまでに時間がかかることが多く、その間、手元で書類を手書きしながら並行して他の仕事をしていると、どっちつかずの時間になる。そこが解消すれば、より効率よく仕事ができると思う。
- PC使用により、子どもたちへ視覚的に訴えることのできる事柄や学習内容は広がった。色んな選択肢の中から、子どもたちに合った物を見つけて活用していきたい。
- 指導者機と学習者用端末とで、アクセス制限ページやアプリの表示が違うことがある。
⇒教員用と学習者用でフィルタリングソフトが異なることが原因で、対処できないようです。
…インターネットのフィルタリングが多すぎる。業務で使ってもすぐブロックされて検索できず、結局、自分のスマホやタブレットを片手に仕事することが多くなり大変不便。
- ICTの活用により利点はあるが、アンケートの増加や心の天気、強制等、子どもと向き合う時間とPCを見つめる時間があり、大切なことにモヤがかかったような印象を受けている。1つのツールとしての活用であれば納得できるが、使用の強制や、不登校生徒へ教室の黒板だけを映しただけの映像配信を「学びの保障」とする意見も聞き疑問を抱くことが多々ある。
- 教育振興基本計画の「授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の半数を超えた学校の割合」を75%にする、正直、意味が分からない。意味のあることをやるのならまだしも…
…「毎日開け!」「80%以上の使用を!」など、PCありきの指導に嫌気がさす。もっと大事な時間を取りたくても、PCを触らせることが目的なのかもしれないが、全学年・全教科で強要されて厳しい。
⇒端末の活用だけが目的化すれば本末転倒です。
…今の質(ハード、ソフトともに)で、デジタルドリルの使用についてプレッシャーをかけないでほしい。
…学習端末を使うことを推奨するなら環境を整えてほしい。
- PCの修繕費が公費対応となり、予算を圧迫する。学校予算を増額するか、センターなどで別に修理費を確保するなどしなければ、PCを修理するために、本来子どもたちへ還元するための物品が購入できないという事態が増加する。

- 本校はプロジェクター設置校だが、老朽化で大変使いにくい。大型テレビに変更できる予算がほしい。
- 機器による採点でどんなことが起きるか。特に国語科の場合、文字・記述の採点はむずかしい。テストの採点は単に点数ではなく、同じ点数でも同じ答案はないように、その子の傾向(何が得意、何が苦手など)があったり、その子のふだん考えていることが記述の中に表れたりすることが多々ある。国語の学力だけにとどまらない指導に役立てることもできているし、実際、そのように取り組んできた。テスト返却のときの一言がとても楽しみだったという子どもたちが少なからず存在することもこの間、知る機会を得ました。労働条件の改善につながることを否定するつもりはないが、機械で数値を早くたたき出せるからとだけ考えてしまうのは危険な面もあるということを考える必要があるのではないかと思う。組合の存在価値はこういった面からの追求ができることにもあるのではないだろうか。

⇒定期大会の議案や大会宣言でも述べましたが、市教組はデジタル化が本当に子どものためになっているのか、検証が必要という姿勢です。

- 様々なツールが導入され、選択肢が増えることは良いことだと思うが、機器の性能や更新、制度やその周知などに不安が多い。広く現場の声を聞いて、今後につなげてほしい。(教員、児童、各職員など、使い手によって見つける課題は様々)
- ブロックで統一して「クロムブック」を使用し、グーグルのアプリばかり使用しているが、転勤した時にマイクロソフト製に変わると使い方が分からないのではと不安。全市で統一できないものか。
⇒教職員・児童生徒の数が多し大都市ならではの課題です。
- 夜間学級の指導で使用するため、学習者の実態に合うよう学習ソフトやデジタル教科書、その他、外部の教材を使用しやすくするための改善を、現場の声から実現してほしい。
- 持ち帰り仕事も労働時間にしてほしい。
⇒勤務情報システム「時間外勤務記録簿(職場外勤務)」より時間を申請してください。

デジタル化に対する市教組のスタンス

※定期大会議案より

24年度から小学校高学年と中学校の英語で、デジタル教科書が導入される。文科省はデジタルによる学力向上を期待しているが、紙に比べて優位という結果は得られていない。OECDが12年の国際学力テストの成績を分析したところ、コンピューターを使う頻度の多い学校ほど読解力の成績が低かったとの報告もある。

3月に中学校教科書の検定結果が公表された。QRコードでリンクする動画やワークシートなどのデジタル教材が各教科で大幅に増え、1人1台端末を踏まえた構成となっている。デジタル教材は子どもの興味を引く一方で、それらを利用して「分かった」「理解した」と錯覚させることもある。教員側もデジタル教材を使用することで「教えた」と錯覚してはならない。子どもが「知りたい」と思うことに自らたどり着ける方法を教えることや、さらに興味を広げるきっかけ作り、モチベーションの維持など、子どもが能動的に学ぶ姿勢を身につけさせることが求められる。

※大会宣言より

GIGAスクール構想により、小・中学校の教科書は、ともにQRコードでリンクする動画やワークシートなどのデジタル教材が各教科で大幅に増え、1人1台端末を踏まえた構成となっている。しかしながら、文科省が昨年11～12月に実施した調査によると、「全授業で多数の児童生徒が高頻度で端末を使用する」ケースで、授業に支障が生じない通信速度として設定した推奨帯域を満たしているのは、全国の小中高校で21.6%にとどまった。国の責任における通信環境の速やかな整備が求められる。

一方で、東北大・川島教授(脳科学)は、「スマホ・タブレットの長時間使用は学力の伸び悩みの直接的な原因になっている」と警鐘を鳴らしている。小学3年生～中学3年生の1万3千人を対象にした調査では、学習目的のアプリであれ、使用時間が長くなると得点が下がる傾向が見られ、使用時間が2時間以上になると家庭学習を3時間以上していても全体の平均点に届かない結果となった。

興味・関心を引き出す点ではデジタルに分があるのかもしれないが、定着させる・思考を深めることを踏まえると、デジタル一辺倒は危険なのではないだろうか。